

講義録レポート

講義録コード

00-5-11-201-01

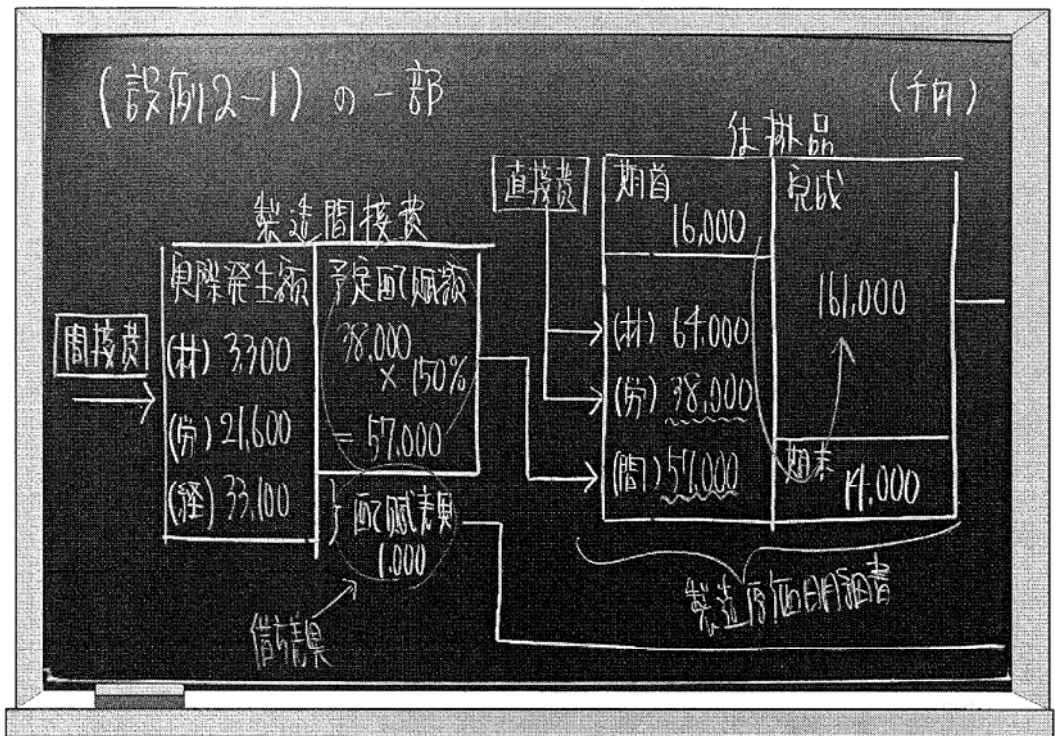
講 座	簿記検定講座	科目①	ベーシック講義
目標年	2015年6月合格目標	科目②	工原Ⅰ
コース	1級レギュラーコース	回 数	1 回
用 途	☒ 個別DVD・ ☒ 集合DVD ☒ WEB通信・ ☒ DL通信・ ☒ DVD通信・資料通信		

収録日	2014 年 6 月 10 日											
講師名	林 健 先生	内 訳	<table border="1"> <tr> <td>板書 枚数</td><td>2 枚</td><td>※レポート 含まず</td></tr> <tr> <td>補助レジュメ 枚数</td><td>17 枚</td><td></td></tr> <tr> <td>その他 ()</td><td>枚</td><td></td></tr> </table>	板書 枚数	2 枚	※レポート 含まず	補助レジュメ 枚数	17 枚		その他 ()	枚	
板書 枚数	2 枚	※レポート 含まず										
補助レジュメ 枚数	17 枚											
その他 ()	枚											

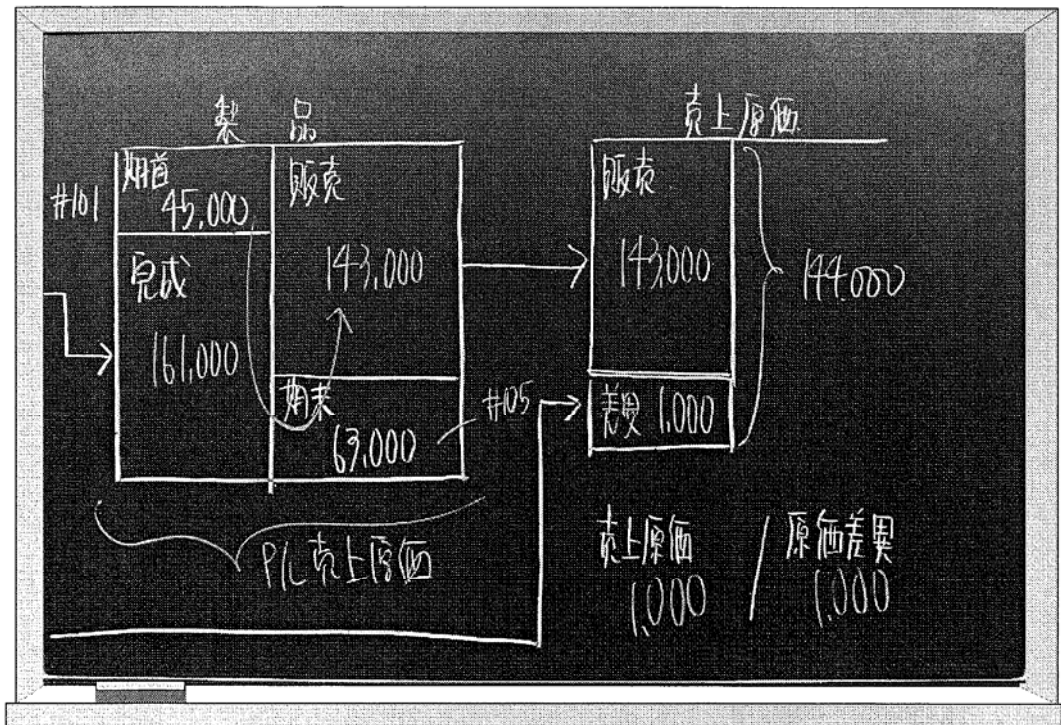
授業構成	前半 96 分 → 休憩 10 分 → 後半 67 分		
実施テスト	有 ・ ☒ 無		
対応テスト	<ミニテスト>		
	<答練・演習>		
使用教材	●基本テキスト 合格テキストⅠ P.2 ～P.29 ●レジュメ [] P. ～P. ●その他 [] P. ～P.		
配布教材	●教材(テキスト・問題集) (原価計算基準レジュメ) ●補助レジュメ () 17 枚 ●その他 () 枚		講義録添付 (有・無) 講義録添付 (有・無)
備考	＊ビデオ受講生の方へ＊ 正確な講義時間につきましては、DVDケースの背表紙下に記載されていますので適宜ご確認下さい。 (例) ①51 記載の場合、前半講義 51分 (答練・演習の場合は、解説もしくは事前講義 51分を表します) ～ビデオ・Web 受講生各位～ 黒板を写すカメラのスイッチング(切替)は講師が行っている都合上、映像中に一部講師が画面に写らない場合もございますが、故障ではありません。音声及び本講義録をご参照の上ご受講ください。受講生の皆様にはご迷惑をおかけいたしまして申し訳ございません。		

TAC簿記検定講座

黑板①



黑板②



黑板③

(設例3-1) (設例2-1)とリンク (千円)

	#102	#103	#104	#105	#106	合計	
期首仕掛品	9,300	6,700	—	—	—	16,000	仕掛品 % (借)
直接材料費	—	3,500	24,000	29,500	7,000	64,000	
② 直接労務費	4,400	5,600	11,800	13,400	2,800	38,000	
③ 製造間接費	6,600	8,400	19,700	20,100	4,200	59,000	
合計	20,300	24,200	53,500	63,000	14,000	175,000	
備考	完・引落	完・引落	完・引落	完・在庫	(仕掛中)		

仕掛品% (貸)

● オリエンテーション (1級 工業簿記・原価計算) ●

1. 日商簿記検定試験 1級の概要

1. 試験日

日商簿記検定試験	1級の実施
6月の第2日曜	○
11月の第3日曜	○
翌年2月の第4日曜	×

} 1級は6月と11月の年2回のみ実施

次回の試験 (第140回)

平成27年6月14日(日)

2. 試験制度

	科目	配点	制限時間
2級	商業簿記 (3問)	60点	合計で 2時間
	工業簿記 (2問)	40点	
	合計	100点	

合計**70点以上**で合格

	科 目	配 点	制限時間
1 級	商業簿記	25点	90分
	会 計 学	25点	
	回収・休憩等（20分程度）		
	工業簿記	25点	90分
	原価計算	25点	
	合 計	100点	3時間

合計**70点以上**で合格

② 2級との違い

① 実質的に相対評価の試験です

日商1級では最終的な配点は試験後に決まります。そのうえで得点上位から一定割合までしか合格できない実質的に相対評価の試験です。

② 足切り制度があります

4科目のうち1科目でも**10点未満**の科目があると、合計点にかかわらず**不合格**になってしまいます。

(例: 商25+会25+工25+原9=合計84点でも不合格)



1級合格のポイントは

- ・ 苦手科目をできるだけ作らないこと
- ・ 多くの受験生が正解できる箇所を失点しないこと

このためには、

『基礎知識 (理解と計算力)』をしっかり身につける

ことが必要です。

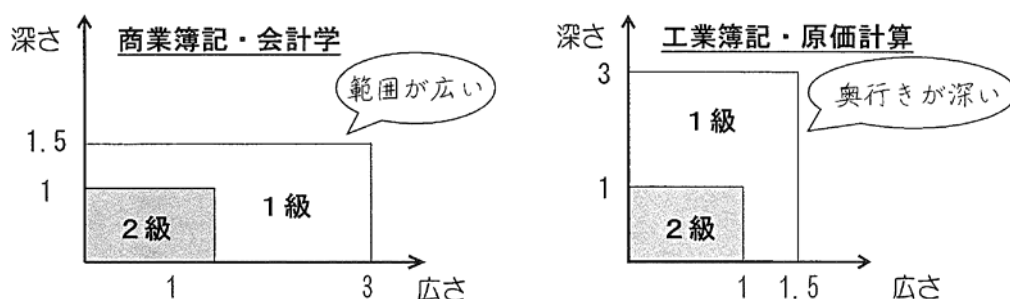
3. 合格率 … およそ10%が目安になります。

122回	123回	125回	126回	128回	129回	131回	132回	134回	135回
10.2%	9.2%	8.7%	13.3%	10.4%	13.0%	12.2%	12.9%	9.7%	10.4%

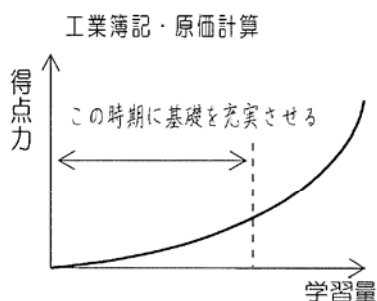
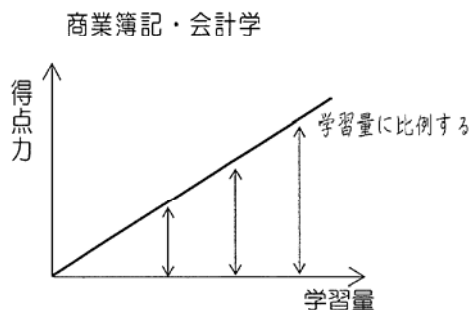
※ 近年における最高合格率は17.0%（第83回）、最低合格率は1.9%（第84回）です。

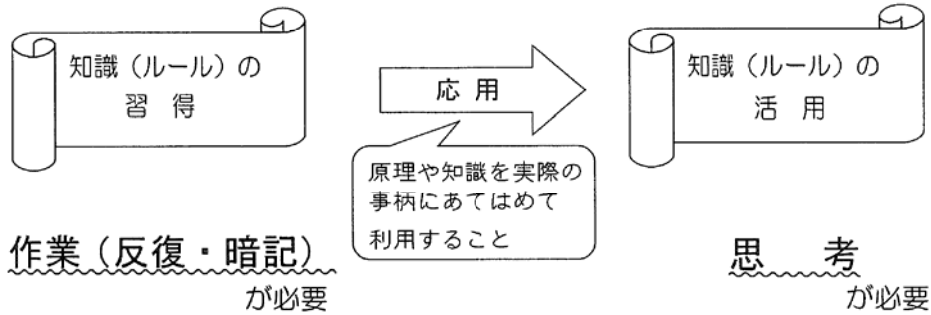
4. 学習内容の特徴とその対策

学習量を日商2級と比較するとおおよそ次のようなイメージです。



科目	特徴	キーワード
商業簿記・会計学	種々の会計規則に定められた計算処理方法についての知識の有無（処理能力）が求められます。したがって、知識を定着させるための反復練習が何より重要になります。	・知識の有無 ・反復練習 ・処理能力
工業簿記・原価計算	学習範囲は商會ほど広がりませんが、奥行きが相当深くなり、とくに2級ではなじみの薄い『管理会計』の領域が重要です。本試験では、設定されている状況や構造を読み取り、適切な処理方法を自ら判断し活用できるか否かといった思考能力と実践力が重視されます。 そのため、表面的な計算パターンの習得だけでなく、その計算の意味合いを理解しながら学習を進めていくことが重要になります。	・読解力 ・知識の活用 ・思考能力





2. 工業簿記・原価計算(工原)の対策講義について

1. 工業簿記・原価計算の試験委員

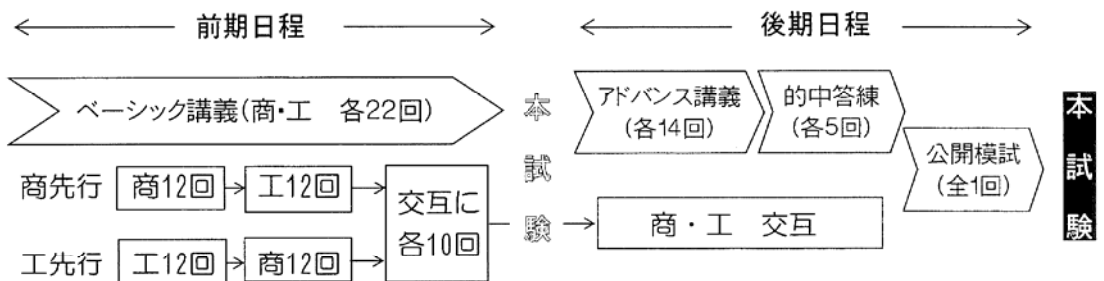
尾畑 裕 } 一橋大学(大学院) 両教授 を中心としたメンバー
挽 文子 }

2. 出題分野・内容・形式など

	出題分野	出題内容	出題形式
工業簿記	財務会計中心	製品原価の計算(及びその過程)	勘定記入・財務諸表の作成
原価計算	管理会計中心	利益計画・予算統制・意思決定など	数値計算問題

(注) 最近では理解重視の観点から、『原価計算基準』などの理論問題が出題されることもあります。

3. カリキュラム(1年or10ヵ月コース)



ベーシック講義……………『工業簿記と原価計算』の出題範囲のうち、重要な基礎論点を分野別に学習します。各回ミニテストを実施します(基礎演習実施回を除く)。

アドバンス講義……………ベーシック講義で扱わなかった応用的な論点を学習します。

的中答練……………本試験形式の予想問題を制限時間内で解くことで、解答手順や時間配分など、合格答案作成に必要な実践力を養います。

公開模試……………全国公開模擬試験です。

〈基本使用教材〉

- ① 合格テキスト／工原Ⅰ～Ⅲ (Ver5.0)
- ② 合格トレーニング／工原Ⅰ～Ⅲ (Ver5.0)
- ③ 『原価計算基準』(冊子)

※ 合格トレーニング、原価計算基準は基本的に自宅学習用になります。

〈過去問題集〉

『合格するための過去問題集』 ← 回数別 (商会・工原で一冊)

『出題パターンでマスター』 ← 分野別 (商会・工原が別冊)

※ 過去問題集は各自でお買い求め下さい。

5. その他

● 講義の際に最低限必要なもの

- ① テキスト
- ② 筆記具 (2～3色のマーカーもあるとよい)、付箋紙等 (メモ用に大きめのもの)
- ③ 電卓 (12桁のものが望ましい。√ キーは必須)
- ④ 出席カード

各回の講義ではレジュメ (講義用ノート) を配布します。
各自でバインダーやクリアファイルなどを用意してファイリング
してください。

● 欠席時のフォローについて

講義はできるだけ休まないことが望ましいですが、やむを得ず欠席される場合は
下記のようなフォロー制度がありますので早い目にフォローするようにして下さい。

- ① 自由出席制度 (他のクラスへ出席) を利用する。
- ② Webフォロー・DLフォローを利用する (本科生は無料)。
- ③ 個別ブースでのDVDフォローを利用する (有料 500円/回、要予約)。

(注) 当クラスは先行収録クラスです。映像または音声のフォローについては
多少のタイムラグがありますのでご注意下さい。

● 質問電話

簿記検定講座講師室 (直通) 03(5276)8916

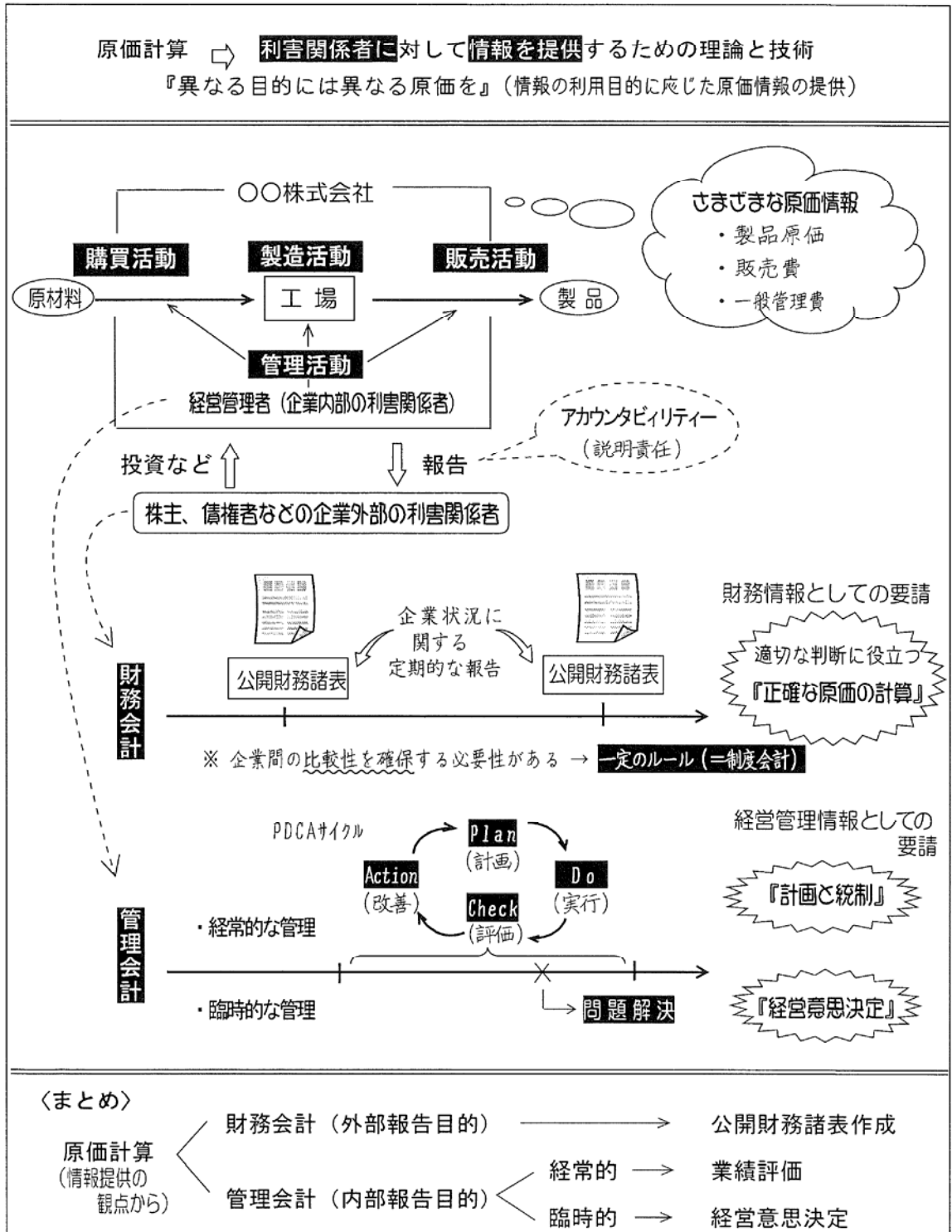
	月	火	水	木	金	土	日
PM2:00～PM5:00	○	○	○	○	○	×	×
PM6:00～PM8:00	○	×	○	×	○	×	×

日商1級 工原I ベーシック講義 第1回

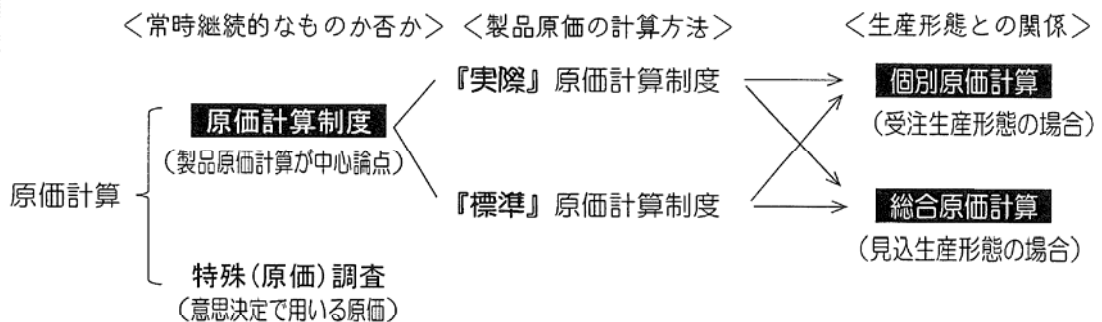
補助レジュメ (テキストp.1~p.29)

テーマ1 総論

【Point】1級で学習する工業簿記・原価計算の全体像



【Point】原価計算の種類、原価計算制度

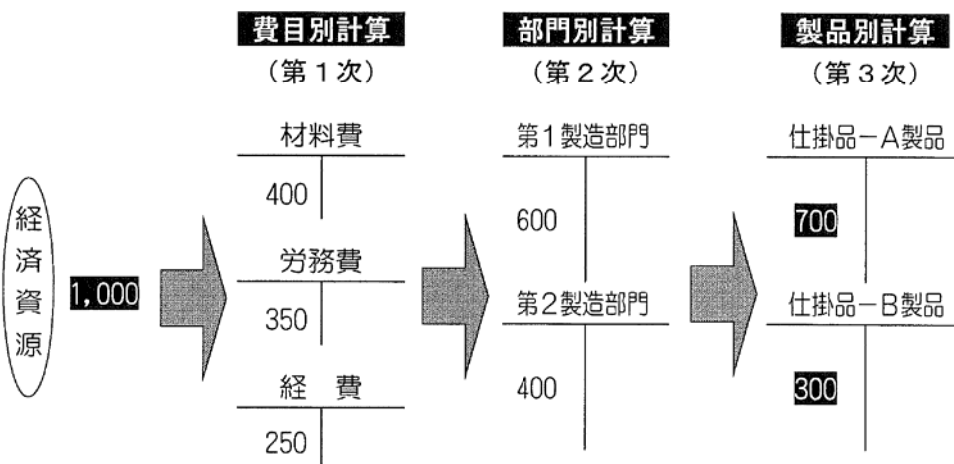


原価計算制度 … 複式簿記と結合して常時継続して行われる原価計算

製品原価の集計プロセス → 『価値移転計算』

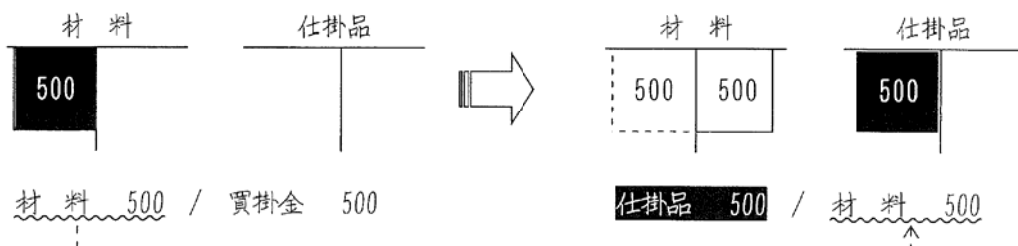
= 消費された経済資源の価値を製品生成の過程に沿って順次移し替えていく手続き

計算 (= 原価計算) と記録 (= 工業簿記) の結合



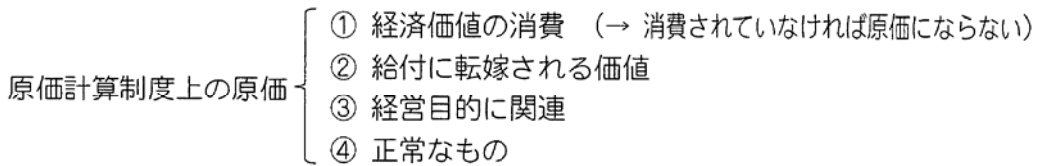
※ 価値の移し替えは『振替仕訳』の繰り返して行います。 ➡ **勘定連絡図**

(ex) 材料勘定(借方)から仕掛品勘定(借方)への振替

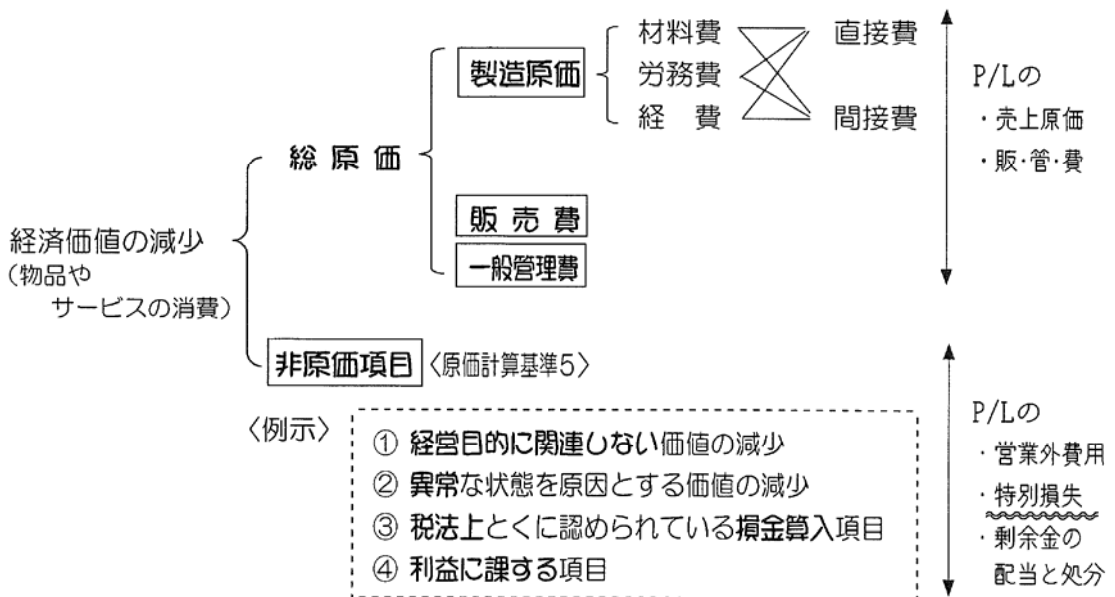


【Point】原価の一般概念、原価の基礎的分類

1. (原価計算制度上の) 原価の一般概念



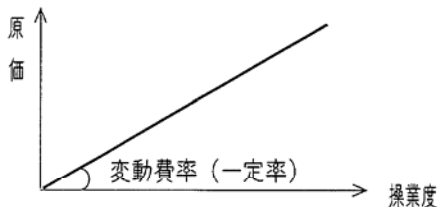
2. (原価計算制度上の) 原価の基礎的分類



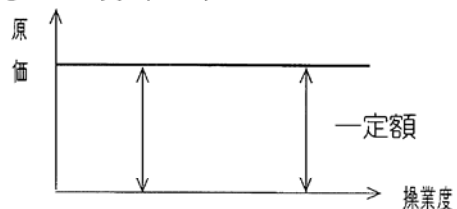
3. 操業度との関連における分類

※ 操業度 … 生産設備を一定としたときのその利用度合い

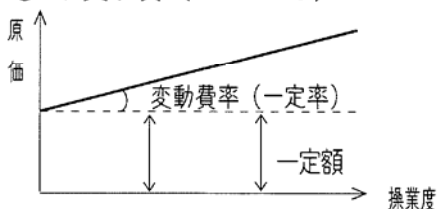
① 変動費 (VC)



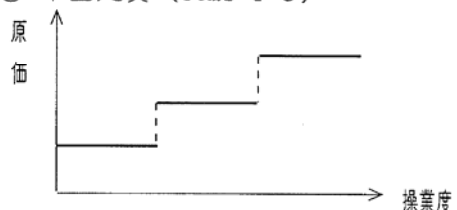
② 固定費 (FC)



③ 準変動費 (semi-VC)



④ 準固定費 (semi-FC)



【設例1-1】(p.11) ㊦(★★☆)(重要度=★が多いほど重要)

(注) 費目別の詳細な分類は2～3回目の講義で学習します。

【Point】

- ① 非原価項目の抽出
 ② 原価計算制度上の原価
 『製造、工場、工員』 ⇒ 製造原価
 『営業、本社、企画、管理』 ⇒ 販売費や一般管理費

材 料 費	労 務 費	経 費	販 売 費	一般管理費
-----	-----	-----	-----	-----
-----	-----	-----	-----	-----
-----	-----	-----	-----	-----
=====	-----	-----	=====	-----
	=====	-----		-----
		=====		=====

〈非原価項目〉 → -----

【解 答】

材 料 費	労 務 費	経 費	販 売 費	一般管理費
① 320	② 180	③ 19	⑩ 40	⑨ 25
⑥ 175	⑤ 2,300	④ 40	⑭ 30	⑱ 300
⑬ 32	⑧ 190	⑪ 850	⑳ 20	⑲ 500
<u>527</u>	⑳ 30	⑮ 40	<u>90</u>	㉑ 35
	<u>2,700</u>	㉒ 90		㉓ 190
		<u>1,039</u>		<u>1,050</u>

『製造原価』 4,266

〈非原価項目〉 → ⑦ ⑫ ⑯ ⑰ ㉔

【Point】個別原価計算

個別原価計算 … 顧客からの注文に基づいて発行した『特定製造指図書』ごとに
製品の製造原価を集計する原価計算の方法



直接費と間接費の区別が重要

「継続製造指図書」
(総合原価計算の場合)

- { 直接費 … 特定の製品製造のために消費額が跡付けできる原価
{ 間接費 … 特定の製品製造のために消費額が跡付けできない原価

(例)

製造指図書別原価計算表 (単位:円)

	No.1	No.2	No.3	No.4	合 計
期首仕掛品原価	6,000	—	—	—	6,000
直接材料費	—	6,000	8,000	5,000	19,000
直接労務費	2,000	4,000	5,000	3,000	14,000
製造間接費	3,000	6,000	7,500	4,500	21,000
合 計	11,000	16,000	20,500	12,500	60,000
備 考	完成	完成	完成	仕掛中	

仕掛品勘定の貸方と対応します

仕 掛 品	
前期繰越 (6,000)	製 品 (47,500)
材 料 (19,000)	次期繰越 (12,500)
賃金・手当 (14,000)	
製造間接費 (21,000)	
(60,000)	(60,000)

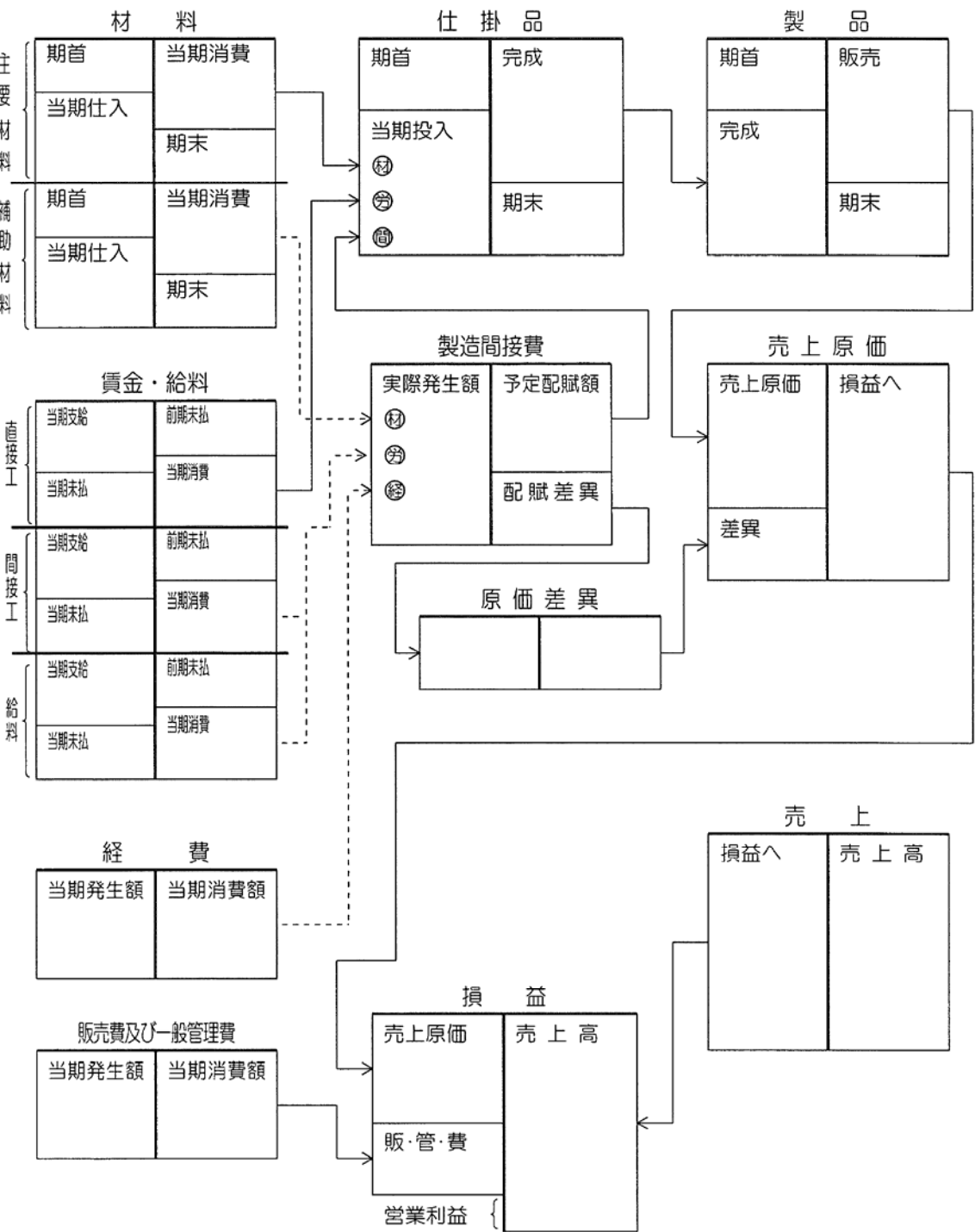
仕掛品勘定の借方と対応します

(注意) 個別原価計算では、原則として特定指図書に指示された生産量 (ex. No. 1はA製品50個の生産指示であれば)、そのすべて (50個) が完成してはじめて「完成品原価」となります。

【設例2-1】(p.21) ㊟(★★★)

※ 勘定連絡図

(単位：千円)

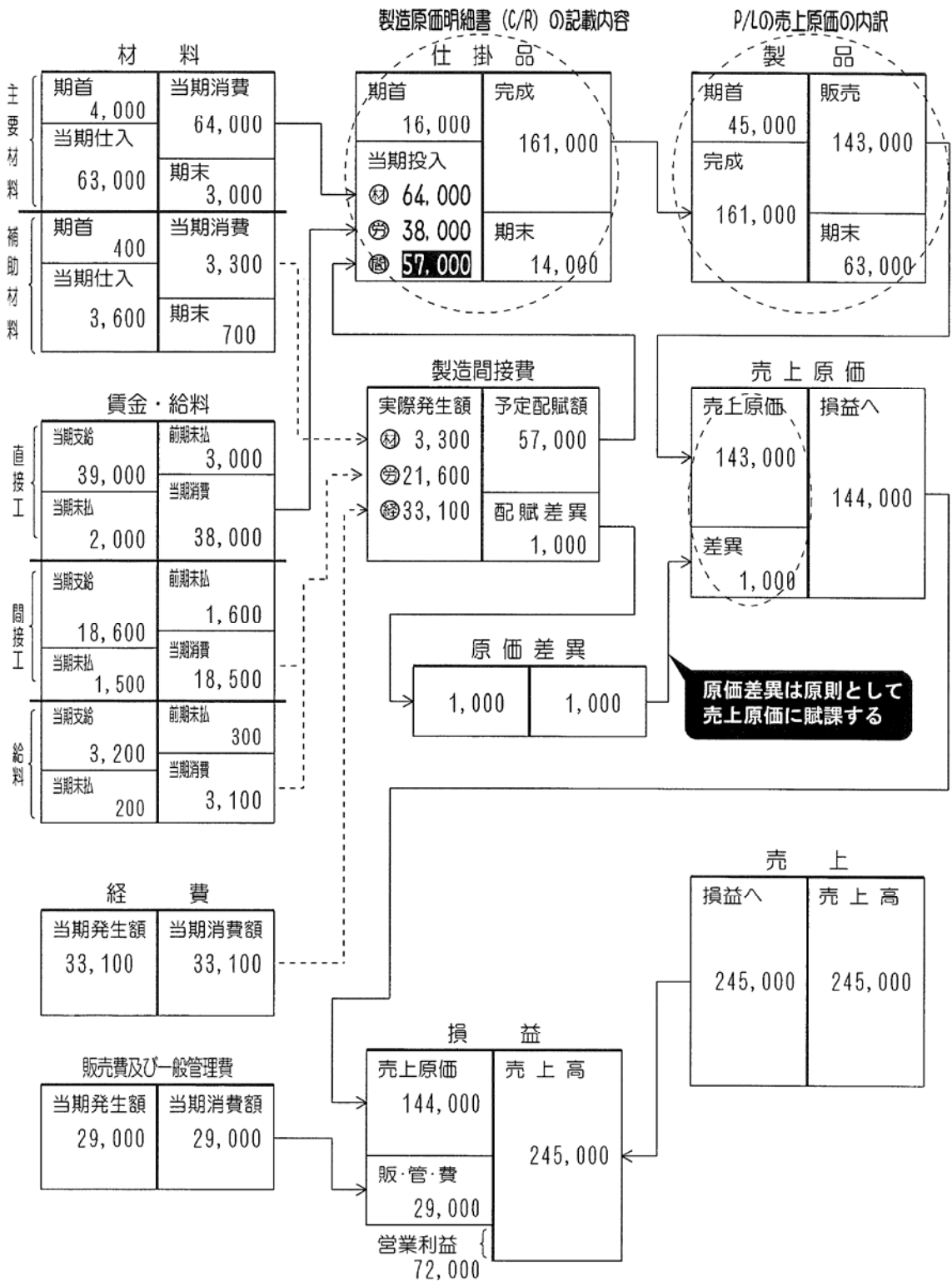


製造原価明細書 (C/R)		(単位: 千円)
I 直接材料費		
1. 期首材料棚卸高	-----	
2. 当期材料仕入高	_____	
合 計	-----	
3. 期末材料棚卸高	_____	-----
II 直接労務費		-----
III 製造間接費		
1. 補助材料費	-----	
2. 間接工賃金	-----	
3. 給 料	-----	
4. 水道光熱費	-----	
5. 租 税 公 課	-----	
6. 賃 借 料	-----	
7. 減価償却費	-----	
8. 雑 費	_____	
合 計	58,000	← いったん実際発生額が集計されている
製造間接費配賦差異		57,000 ← 予定配賦額に修正
当期総製造費用	_____	-----
()		_____
合 計		-----
()		_____
当期製品製造原価		=====

損益計算書 (P/L)		(単位: 千円)
I 売 上 高		-----
II 売 上 原 価		
1. ()	-----	
2. ()	_____	
合 計	-----	
3. ()	_____	
差 引	-----	
4. 原 価 差 異	_____	_____
売上総利益		-----
III 販売費及び一般管理費		_____
営 業 利 益		=====

※ 勘定連絡図

(単位:千円)



製造原価明細書 (C/R)		(単位: 千円)
I 直接材料費		
1. 期首材料棚卸高	4,000	
2. 当期材料仕入高	63,000	
合 計	67,000	
3. 期末材料棚卸高	3,000	64,000
II 直接労務費		38,000
III 製造間接費		
1. 補助材料費	3,300	
2. 間接工賃金	18,500	
3. 給 料	3,100	
4. 水道光熱費	3,800	
5. 租 税 公 課	4,400	
6. 賃 借 料	6,000	
7. 減価償却費	17,400	
8. 雑 費	1,500	
合 計	58,000	← いったん実際発生額が集計されている
製造間接費配賦差異	1,000	57,000 ← 予定配賦額に修正
当期総製造費用		159,000
期首仕掛品棚卸高		16,000
合 計		175,000
期末仕掛品棚卸高		14,000
当期製品製造原価		161,000
損益計算書 (P/L)		(単位: 千円)
I 売 上 高		245,000
II 売 上 原 価		
1. 期首製品棚卸高	45,000	
2. 当期製品製造原価	161,000	←
合 計	206,000	
3. 期末製品棚卸高	63,000	
差 引	143,000	
4. 原 価 差 異	1,000	144,000
売上総利益		101,000
III 販売費及び一般管理費		29,000
営 業 利 益		72,000

※ **製造間接費の内訳を示さない場合**の表示方法（1級ではこちらが一般的）

製造原価明細書 (C/R)		(単位：千円)
I 直接材料費		
1. 期首材料棚卸高	4,000	
2. 当期材料仕入高	63,000	
合 計	67,000	
3. 期末材料棚卸高	3,000	64,000
II 直接労務費		38,000
III 製造間接費		57,000
当期総製造費用		159,000
期首仕掛品棚卸高		16,000
合 計		175,000
期末仕掛品棚卸高		14,000
当期製品製造原価		161,000

予定配賦額を
直接計上する

《コメント》

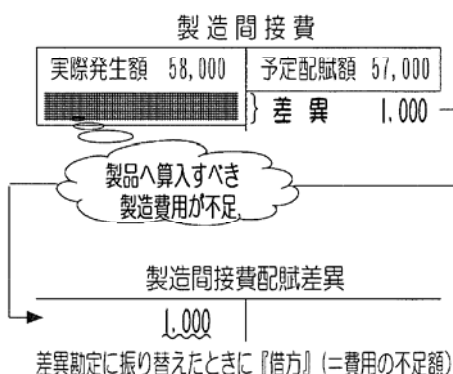
1級の試験で製造原価明細書(C/R)の記入自体が問われる可能性は低いと思いますが、工業簿記の常識として作成方法を理解しておく必要があります。

製造間接費について予定配賦を行っている場合には、当期総製造費用には予定配賦額の57,000(千円)が計上されることに注意して下さい。つまり、設例のように実際発生額の内訳(合計 58,000千円)をいったん明示する場合には、予定配賦額に修正するための差額調整が行われます。

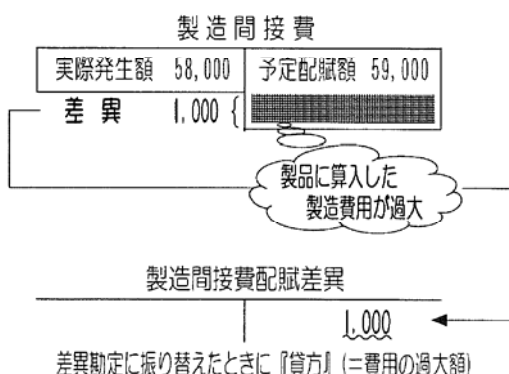
【重要】原価差異の把握

製品コストの計算においては、主に製品原価の算定を迅速に行うために予定価格を用いることが一般的です。この場合は期中において原価差異が算出されます。とくに不利差異(借方差異)と有利差異(貸方差異)を混同しないように注意して下さい。

【借方差異】



【貸方差異】



【設例3-1】(p.28) ㊦(★★★)

製造指図書別原価計算表

(単位:千円)

	#102	#103	#104	#105	#106	合 計
期首仕掛品原価						
直接材料費						
直接労務費						
製造間接費						
合 計						
備 考						

		仕 掛 品	
#102	前期繰越 ()	[()]	()
#103	材 料 ()	次期繰越 ()	#106
	賃金・手当 ()		
	製造間接費 ()		
	()		
		#102~#105	

		製 品	
#101	前期繰越 ()	[()]	() #101~#104
→	[()]	次期繰越 ()	#105
	()		

【問題集との対応】… 今回の範囲の問題はすべて2級の復習問題です。1級では基礎中の基礎にあたりますから、しっかり見直しをしておいてください。

テキスト	問題集 (TR)	重要度	時間
設例1-1	問題 1-1	C	5分
	1-2	C	3
	1-3	C	3
	1-4	C	3
設例2-1	問題 2-1	C	15
	2-2	C	15
	2-3	C	15
設例3-1	問題 3-1	C	10
	3-2	C	8

＜重要度の表示＞

- A … 過去問題の類題
 B … 重要度の高い問題
 C … 基礎の確認問題
 D … 研究レベルや特殊な内容の問題
- } 必須問題

Aランクは、その範囲の完成問題の位置づけです。
 本試験レベルの問題も多く、最終的にはできるように
 ならなくては行けませんが、まずは、「B+C」ランク
 を確実にできるようにしてから臨んで下さい。

＜補 足＞ 問題集1-2

『新技術の基礎研究費』… 【技術研究費】(原価計算基準39)

新製品または新技術の開拓等の費用で企業全般に
関するもの。



『一般管理費』

※ただし、必要ある場合には別個の項目として記載することができる

【次回のミニテストの準備】

テキスト：設例2-1, 3-1

問題集：問題2-1, 3-1

【参 考】問題集(トレーニング)の使い方

トレーニングの問題を解く際には、『問題構造の把握 ⇒ 解答手順の構築 ⇒ 使用する計算ルールの適用』という手順に重点を置いてください。そのうえで実際に手を動かして解答を書き出してください。

本試験では練習問題がそのまま出題されることはありませんが、ひとつひとつの計算ルールは基礎的なものがほとんどですから、普段からどんな小さな問題であっても『何故こうなるか?』を考えるクセをつけておくことが大切です。

ただし、1題の問題に対していつまでも考え込んでしまうことは時間の浪費に直結しますから、5～10分程度考えても上記の手順が頭に描けないときは、【解答・解説】を参照して下さい。この場合は、どの部分でつまづいたのかを必ず確認したうえで、自力で解答できるまで繰り返して解くようにして下さい。 また、間違った箇所などは、ポストイット(付箋紙)などに書き出して置き、記憶に定着するまで定期的に確認することをお勧めします。

1級 学習進度表(ベーシック講義)

1級 工業簿記・原価計算 I (Ver.5.0)

標準 学習進度	テーマ	主な学習論点	添削問題 出題範囲
第1回	1 総論	1 日商1級工業簿記・原価計算で学ぶこと	基礎演習 第1回
		2 原価計算の意義と目的	
		3 原価計算の種類と生産形態による分類	
		4 原価の一般概念	
		5 原価の基礎的分類	
		6 原価計算の手続き	
		7 原価計算単位と原価計算期間	
	2 原価記録と財務諸表	1 原価計算と工業簿記	
		2 財務諸表	
	3 個別原価計算	1 個別原価計算の意義	
		2 個別原価計算の概要	
		3 個別原価計算の計算手続	
		4 原価記録と財務記録	
第2回	4 材料費会計	1 原価の費目別計算	
		2 材料費会計総論	
		3 材料購入原価の計算と処理	
		4 材料消費額の計算と処理	
		5 月末材料の管理	
第3回	5 労務費会計	1 労務費会計総論	
		2 支払賃金の処理	
		3 賃金消費額の計算	
		4 その他の労務費の計算	
		5 定時間外作業手当の処理	
	6 経費会計	1 経費会計総論	
		2 間接経費の計算と処理	
		3 外注加工賃の計算と処理	
第4回	7 製造間接費会計	1 製造間接費会計総論	
		2 製造間接費の実際配賦	
		3 製造間接費の予定配賦	
	8 原価の部門別計算(Ⅰ)	1 部門別計算総論	
		2 部門別計算の手続き (設例8-3まで)	
第5回	9 原価の部門別計算(Ⅱ)	(設例8-4より)	
		1 単一基準配賦法と複数基準配賦法	
		2 補助部門費の配賦方法と責任会計	
第6回		3 部門別製造間接費の予定配賦 (設例9-5)	
		基礎演習 第1回	